

各加盟団体
アルペン競技担当者 様

公益財団法人全日本スキー連盟
競技本部長 古川年正
アルペン部長 片桐幹雄



2014/2015 シーズン
アルペン競技に関する各種ルール等について（通知）

平素より、本連盟の事業においてご協力頂き大変ありがとうございます。

さて、シーズンが終了し来シーズンに向けた準備や取り組み等進んでいることかと思
います。

本連盟アルペン部では、春季技術・運営委員会を開催し、昨年度の取り組みの振り返り
を行いながら十分な話し合いを行いました。昨シーズンは、選手によって、規格の異なる
用具で同じ競技会に出場する等の事例があり、たいへんな混乱をきたしました。

そこで、2014/2015 シーズンから、競技スキー用具については、共通規格の用具で競技
を行えるようにすることが望ましいとの決議により、国内運用ルールを設定いたしました。

選手の次期シーズンの用具購入に支障をきたさないように取り急ぎ、関係各所への連絡
をいたします。

また、その他事項についても国内運用ルールを設定いたしましたので、各都道府県所属
のチーム・選手・コーチへの速やかなご連絡をお願いいたします。

添付資料

- ・国内運用ルールについて
- ・2014/2015 シーズン スキー用具に係る国内運用ルールについて
- ・FIS 競技用品ルールの抜粋

国内運用ルールについて

1. 公認A・B級大会に出場する選手のラディウスについて

- ・ 別紙競技用品ルール表参照

＜例＞女子R30, 男子R35を使用して出場する。

※高校1年生早生まれの選手、中学3年生も女子R30, 男子R35を使用する。

※インターハイ、高校選抜、国体少年組も同じとする。

※チルドレンレースについては、対象外になります。

2. ヘルメットについて

- ・ FISレースについては、新しい規格のヘルメットを着用することになっています。FISレース以上の大会は、FISルールに基づくため新しい規格のヘルメット着用になりますが、「SAJA・B級大会について2014/15シーズンは推奨する。」ということになりました。

尚、2015-16シーズンは、ルール通り新しい規格のヘルメット着用になります。

※このヘルメットルールは、DH・SG・GS競技に適用されます。

※新しい規格のヘルメットとは、FIS新規格に対応しFIS表示(指定ステッカーなど)により明示されているもの。

3. U16、U14のマテリアルルール変更の対応について

- ・ 2014/2015シーズンのU14/U16のマテリアル変更に伴うSAJの対応については、「推奨する」とし、海外FISチルドレン参戦については、ルール通りとする。また、2015/2016シーズンからはU16はルール通りとし、U14は「推奨」とする。

4. チルドレン出場レース制限について

- ・ 各種目の出場レース数をK1は4レース、中学1・2年生は5レース、中学3年生はB級大会出場も含めて6レース、高校1年生早生まれは制限なしとする。
※大会を追い過ぎないで練習に専念できる環境の確立や経費をあまりかけない強化活動推奨を考え決定した。
※尚、チルドレンレースの細部変更については、追ってSAJHPへ掲載します。

5. A級公認セッター受検資格について

- ・ 昨年までは、「FIS全日本選手権大会、ジャパンシリーズ及びFISレースにおいて6位までの入賞が3回数以上の者」になっていましたが、1部規約改正に伴い「全日本選手権大会とジャパンシリーズにおいて10位までの入賞が3回以上の者」に変更になりました。

2014/2015シーズン スキー用具に係る国内運用ルールについて

SAJ競技本部 アルペン技術・運営委員会 2014年5月25日決定事項

種 目	D H				S G				G S				S L		
	※スキー長 最短の長さ Cm(センチメートル) ※ラディウス(R) 最小弧 M(メートル)														
カテゴリー／大会	女子		男子		女子		男子		女子		男子		女子	男子	
	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	ラディウス	スキー長	スキー長	
COC	コンチネンタルカップ	210	50	218	50	205	40	210	45	188	30	195	35	155	165
FIS/NC	FISレース 全日本スキー選手権	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 ※1
SAJ-A級	インカレ 学生チャンピオン					200	40	205	45	183	30	190	35	155	165
	インターハイ・高校選抜 (高校1年生早生れ含む)					200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 ※1
	国民体育大会 (中学3年生・高校1年生れ含む)									183	30	190	35		
SAJ-B級 (チルドレンレースは除く)	全選手共通 (中学3年生・高校1年生れ含む)	205	50	213	50	200	40	205	45	183	30	190	35	155	165 ※1
チルドレンレース (SAJ-B級) 全国中学 ジュニアオリンピック 全日本ジュニア選手権SG (中学生の部)	U14(14歳未満)					体格、体力、技能に適応したスキー				最大スキー長 188 14-15/15-16シーズン推奨				130	130
	U16(16歳未満)					最小スキー長 183 14-15シーズンは推奨 15-16シーズンより義務化				最大スキー長 188 14-15シーズンは推奨 15-16シーズンより義務化				130	130

※1 : U18(18歳未満/Junior1)SLにおいては、-10cmの許容差を認める

スキー高	スキー板+プレート+ビンディング	50mm 全種目、全カテゴリー、男女共通
ブーツ高	すべてのハードおよびソフトパーツを含む ヒールの底部からスキーブーツソールまでの間隔	43mm 全種目、全カテゴリー、男女共通
ヘルメット	FIS公認レースは14-15シーズンより、すべて新規格のヘルメット着用を義務付けする。 SAJ-A級大会・B級大会は、14-15シーズンは新規格のヘルメット着用を推奨する。 15-16シーズン以降は新規格のヘルメット着用を義務付けとする。 新規格ヘルメットには、新規格対応表示(FIS新規格対応ステッカーなど)が明示されていなければならない。	

※ 本書はファックスによる伝達を禁じます。

FIS競技用品ルールの抜粋

1.2.1.1	スキーの長さ(最短長) ★最短長とは最も短い長さを言う ※ DH/SG/GS:FISレースのみ-5cm許容差を認める。 ※ SL:男子U18(ジュニア1)においては、FISレースにおいてのみ、-10cmの許容差を認める。	ワールドカップ	W	C	FIS		
		ヨーロッパカップ	E	C			
		コンチネンタルカップ	C	C			
		世界ジュニア選手権	W	J			
		五輪冬季大会	O	W			
		世界選手権	W	S			
		滑 降	DH	女子		210	205
		滑 降	DH	男子		218	213
		スーパーG	SG	女子		205	200
		スーパーG	SG	男子		210	205
大回転	GS	女子	188	183			
大回転	GS	男子	195	190			
回 転	SL	女子	155	155			
回 転	SL	男子	165	165			
U-18男子のみ-10cm許容差を認める。↑							
1.2.1.2.1	ビンディング下部分のスキーの幅 いわゆるブーツセンター位置など、スノーの幅の最も狭い部分の値	滑 降	DH	女子	65mm以下		
		滑 降	DH	男子	65mm以下		
		スーパーG	SG	女子	65mm以下		
		スーパーG	SG	男子	65mm以下		
		大回転	GS	女子	65mm以下		
		大回転	GS	男子	65mm以下		
		回 転	SL	女子	63mm以上		
		回 転	SL	男子	63mm以上		
1.2.1.2.2	ビンディングより前方部分のスキーの幅 先端からトゥピースまでの間で最も広い部分の幅長	滑 降	DH	女子	95mm以下		
		滑 降	DH	男子	95mm以下		
		スーパーG	SG	女子	95mm以下		
		スーパーG	SG	男子	95mm以下		
		大回転	GS	女子	103mm以下		
		大回転	GS	男子	98mm以下		
		回 転	SL	女子			
		回 転	SL	男子			
1.2.1.2.1	ラディウス(最少弧)	滑 降	DH	女子	50 m		
		滑 降	DH	男子	50 m		
		スーパーG	SG	女子	40 m		
		スーパーG	SG	男子	45 m		
		大回転	GS	女子	30 m		
		大回転	GS	男子	35 m		
		回 転	SL	女子			
		回 転	SL	男子			
2.1.2	スキー高 (スキー/プレート/ビンディング)	50 mm 以内					
3.2	スキーブーツ ブーツ底面からヒールのベースまでの間 (すべてのパーツを含んだ高さ)	43 mm 以内					